

# ハイブリッド総会・講演会を土曜開催 懇親会は今年も見送り

## 静中静高 関東同窓会 会報

静中静高関東同窓会  
会報 第93号  
2022年5月20日発行  
静中静高関東同窓会  
会報編集委員会



### 目次

- 2頁 講演紹介 青島矢一（99期） 3～4頁 総会議案
- 5頁 「天皇が詠まれたヒマラヤの鶴」小野泰洋（93期）
- 6頁 時代考証「火中の栗を拾う」若桜木虔（81期）
- 7頁～10頁 特集「五十年後に届くメッセージ」
- 10頁 たかが同窓会、されど同窓会 浦田彰（71期）
- 11頁 江川卓元投手の公言 上田尚亮（79期）
- 11頁 岳南球友会 松永啓（94期）
- 12頁 「こんにちは先輩！」・事務通信
- 14～15頁 年会費拠出者一覧

### 多世代交流に向けて

会長

杉山 順一（84期）



静中静高関東同窓会の運営には日頃より多くの皆様のご協力をいただき心より御礼申し上げます。

さて今年も総会開催の時期となりました。ご承知のようにこのコロナ禍の中、同窓会活動も多くの制約を受け、担少なく企画いただけるか」を役員会・理事会で議論して参りましたが幹事期の方々が支障なく集合が出来る、ご年配の皆様が帰宅時間や、若い世代の同窓生が集まりやすい時間帯、さらには近隣県からの出席の利便性等々を勘案し、従来の金曜夜から土曜日開催とさせていただきます。

残念ながら懇親会は今年も見送りとりましたが、どうぞ諸事情ご高承の上、宜しくお願い申し上げます。

また母校の卒業式では今回から卒業生全員に関東同窓会の会報を配布する事に致しました。静高卒業生は関東方面の大学に進学する方が多く、会報の配布は関東同窓会のよきPRになるかとも思っております。

いよいよ総会が近づいて参りました。ご都合の付きます方は会場で、またネット参加の方は画面上で、夫々お会い出来ます事を今から楽しみに致しております。今後ともどうぞ関東同窓会を宜しくお願い申し上げます。

### 特集は7頁から

#### 「五十年後に届くメッセージ」

故鈴木明徴先生は、昭和39年4月（83期一年生）から昭和52年3月（95期三年生）まで静高で地理科の教鞭を執られました。在任中に生徒たちへ配っていたプリント「週刊メイチョウ」を奥様が編集、昨年自費出版をされ、この度、同書未収録の『地球に優しいケチ』も併せて関東同窓会に原稿を寄せてくださいました。今の時代を生きる私達の心に刺さるメッセージが綴られています。

今回は『ボールペンの思い出』に登場する当時三年生の93期及び男子バスケットボール部の皆さんを中心にエピソードの寄稿をお願いしました。

#### 掲載順

- ・小梁吉章（85期）・渡邊典彦（92期）・岡村幸彦（93期）
- ・青島信雄（93期）・小野泰洋（93期）・志賀浦伴昭（93期）
- ・依芳郎（93期）・鈴木大樹（93期）・檜垣竜郎（93期）
- ・青木伸也（93期）

### 会場案内図



都営三田線「内幸町」A7徒歩1分  
千代田線・日比谷線「霞ヶ関」C4  
丸の内線「霞ヶ関」B2  
JR「新橋」日比谷口

日時 2022年7月2日（土）午後3時（午後2時半開場） ※会費なし  
場所 日本プレスセンタービル 10階ホール 東京都千代田区幸町二二二  
※議案資料（本会報）をご持参ください。

議題 一号議案 2021年度事業報告・決算報告・監査報告  
二号議案 2022年度事業計画・予算案

三号議案 役員改選

企画 母校野球部紹介（静高野球部後援会）

講演 総会終了次第 ※講演者 青島矢一（99期）  
演題 「イノベーションを生む産業システムの再構築」

## 講演紹介

「イノベーションを生む  
産業システムの再構築」

99期 青島 矢一

かつて世界第3位であった日本の一人あたりGDPは、今や24位にまで後退し、平均給与もOECD 35カ国の中で20位と低迷しています。そうした中でイノベーションの必要性が叫ばれ、寛容な政策的支援も導入されてきましたが、必ずしも期待したような成果にはつながっていないのが現状です。

そこでこの講演では、過去から現在にいたるさまざまな事例に言及しつつ、

(1) かつての日本の強みを振り返り、

(2) 近年の低迷の原因を掘り下げ、

(3) イノベーションを生み産業を活性化させるために今後すべきことを考えてみたいと思います。

**青島矢一**（あおしま やいち）  
西豊田小、豊田中、静岡高（99期）、一橋大学商学部、同大学院商学研究科、マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院卒業。経営学博士。第55回日経・経済図書文化賞などイノベーションをテーマにした論文・著作の受賞歴多数。現在、一橋大学商学部教授、イノベーション研究センター長。



## 本年度幹事より

99期 関東代表  
理事 稲葉 克哉

## 参加申込み方法

参加ご希望の方は、現地、WEB共に、氏名・卒業期・連絡先を、メールまたはお手元の用紙にてFAXでお申込みください。

## 【メール】

shizukokanto@gmail.com

## 【FAX】事務所

03 (5217) 0301

## 【現地参加の方】

会報発行時点では、会場人数の制限はありませんが、今後コロナ感染拡大等により人数制限となつた場合は、申込み先着順に切替え、メールまたはご指定の連絡先へ参加可否のご連絡をします。また不測の事態等で急きょ現地開催が不可能となつた場合も同様にご連絡します。

## 【WEB参加の方】

総会の三日前に、Zoom会議の招待メールを、お申込みいただいたメールアドレスに送信します。Zoomの接続やウェビナーでの参加にご不安がある方は、お気軽にメールにてご相談いただければ、事前テストのご案内が可能です。

決議方法と  
質疑について

【審議】現地参加とりモート（WEB）参加の両方の方々に、総会当日ご審議いただき、その場にて決議をします。

結果は、ホームページや12月発行の会報等でもご報告します。WEBの利用により、多くの会員のご参加を期待しています。

## 【議案・会活動へのご質問】

ご意見・ご質問は、出欠席に関わらず広くお受けします。お手元の用紙に記載してFAXをいただくか、メールをお送りください。尚、議案や会活動についてのご意見・質疑に限りです。正副会長会・理事会にて内容を協議し、当日、時間の許す限り回答させていただきます。

ホームページからもご意見いただけます。

ホームページ「静岡静高関東同窓会」→トップページ→右上のメニューバー「お問い合わせ」→「投稿ページ」→投稿フォームに入力してください。総会に限りず年間を通じてご意見をお待ちしております。



## 議案主旨

一号議案 2021年度事業報告・決算報告・監査報告

【事業報告】コロナウィルスの影響により、正副会長会・理事会を、WEB会議等を中心に進めた。

【決算概要】64万円の黒字達成。ご協力ありがとうございました。

【収入】会費収入は、692件と予算を上回りました。大口の寄付もあり、収入増加となりました。

【支出】コロナ禍により各期幹事会、異業種交流会などの活動ができなくなりました。3月、母校卒業生に会報とチラシを配布。

【監査】2022年4月19日、会計監査を実施。

二号議案 2022年度事業計画・予算案

【事業計画】ハイブリッド総会・講演会を計画。懇親会は見送り。

下期は各期幹事会・異業種交流会・卒十七の会などの活動を予定。【収入】前年度会費収入と過去の経緯より、650件の会費設定。会費広告料は本会報掲載の会社分を計上。

【支出】下期より、徐々に通常の活動に戻せるよう費用計上。

三号議案 役員改選

総会当日の発表とします。

## 一号議案

## 2021 年度事業報告 自 2021/4/1～至 2022/3/31

## 1. 第 46 回 静中静高関東同窓会総会開催（幹事 98 期）

(1) 日 時：2021 年 7 月 2 日（金）18 時～20 時

(2) 場所・形式：日本プレスセンター10F ホールでの現地と WEB オンラインによるハイブリッド開催

(3) 参 加 者：（現地）45 名（WEB 参加）44 名 合計 89 名の会員参加

(4) 来賓（WEB）：（本 校）小関雅司学校長（本 部）松村友吉同窓会長

（支 部）柴田尚関西支部長（事務局）三浦俊一事務局長、岩崎明教諭

(5) 会 長 挨拶：杉山順一会長

(6) 来 賓 挨拶：小関雅司学校長、松村友吉同窓会長

(7) 母校へ図書券贈呈：事前に 2021 年 4 月 17 日に母校にて贈呈の旨を報告

(8) 議 事：全議事が可決承認

（一号議事）規約改正 （二号議事）2020 年度事業報告・収支決算報告・監査報告

（三号議事）2021 年度事業計画・収支予算計画 （四号議事）役員補充の件

(9) 母校野球部紹介：河村卓利静高野球部後援会会長

(10) 講 演 会：（講演者）佐野倫氏（98 期）、テーマ「おもロシア・おそロシア」 WEB 同時配信

(11) 懇 親 会：コロナ感染拡大防止のため休会

## 2. 会 報 編 集 委 員 会：2 回（5・12 月）会報発行

## 3. 2021 年度 会 計 監 査：2022 年 4 月 19 日

## 4. 正副会長会（役員会）：8 回

## 5. 理 事 会：5 回

## 6. 各 期 幹 事 会：コロナウイルスの影響で休会

## 7. 異 業 種 交 流 会：コロナウイルスの影響で休会

## 8. 古 書 コ ミ 活 動：コロナウイルスの影響で休会

## 9. 卒 業 16 年 目 の 会：コロナウイルスの影響で休会 2022 年度開催へ企画延期（121 期対象）

## 10. 卒 業 25 年 目 の 会：2023 年度開催延期に向けた連絡のみ（113 期対象）

## 11. W E B 広 報 委 員 会：HP リニューアル

## 12. オンライン化プロジェクト：オンライン総会の実施を以て解散

## 13. 寄付募金プロジェクト：検討継続

## 14. 在校生へ関東同窓会紹介：本部協力により卒業式にて直近会報と案内を配布（138 期対象）

静高関東同窓会2021年度決算

2022年3月31日現在

(収入の部)

| 科 目     | 予算        | 実績        | 予算差異    | 備考              |
|---------|-----------|-----------|---------|-----------------|
| 年 会 費   | 1,950,000 | 2,076,000 | 126,000 | 692件            |
| 総会・懇親会費 | 0         | 0         | 0       |                 |
| 会報広告料   | 420,000   | 420,000   | 0       | 全21枠入金          |
| 本部助成金   | 250,000   | 250,000   | 0       | 例年通り            |
| 受取利息その他 | 2,500     | 55,012    | 52,512  | 寄付55,000円 利息12円 |
| 計       | 2,622,500 | 2,801,012 | 178,512 |                 |

(支出の部)

| 科 目        | 予算        | 実績        | 予算差異      | 備考             |
|------------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 総 会 費      | 270,000   | 208,736   | ▲ 61,264  |                |
| (内総会会場費等)  | (270,000) | (208,736) | ▲ 61,264  | 会場代2回分         |
| 会報発行費      | 1,490,000 | 1,405,039 | ▲ 84,961  |                |
| (内印刷費)     | (840,000) | (828,047) | ▲ 11,953  | 母校配布360部含む     |
| (内発送費)     | (600,000) | (576,992) | ▲ 23,008  |                |
| (内編集費)     | (50,000)  | 0         | ▲ 50,000  | 今回辞退           |
| 役員理事会費等    | 322,000   | 80,347    | ▲ 241,653 | 異業種・各期幹事会開催無し  |
| 旅費・交通費     | 13,000    | 12,940    | ▲ 60      |                |
| 銀行郵便局振込料   | 100,000   | 119,990   | 19,990    | 振込料超過          |
| 通信費        | 84,000    | 58,376    | ▲ 25,624  |                |
| (内インターネット) | (64,200)  | (53,540)  | ▲ 10,660  | Zoom、ウイルス対策、HP |
| 事務費        | 240,000   | 240,000   | 0         |                |
| 消耗品費・雑費    | 27,000    | 30,250    | 3,250     | 会報のフォント変更      |
| 慶弔費        |           | 0         | 0         |                |
| 予備費（活動費）   | 56,000    | 6,000     | ▲ 50,000  | 図書券代           |
| 計          | 2,602,000 | 2,161,678 | ▲ 440,322 |                |

収支

639,334 円の黒字

## 財 産 目 録

2022 年 3 月 31 日現在

1、 現 金 90,178 円

2、 預 貯 金 みずほ銀行 1,039,166 円

ゆうちょ銀行 3,531,707 円

預貯金計 4,570,873 円

現金預貯金合計 4,661,051 円

以上

## 監 査 報 告 書

静中静高関東同窓会

会長 杉山順一殿

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの収支決算書及び財産目録、並びに関係書類、帳簿等を監査致しました結果、正確適正に処理されていることを認めて報告致します。

2022 年 4 月 19 日

静中静高関東同窓会 監事 松 島 勤 (84 期)

同 監事 増井喜一郎 (85 期)





二号議案

2022 年度 事業計画

自 2022/4/1～至 2023/3/31

1. 第 47 回 静中静高関東同窓会総会開催（幹事 99 期）
- (1) 日時：2022 年 7 月 2 日(土) 15 時～16 時半
- (2) 場所：日本プレスセンター10F ホール
- (3) 議案：一号議案 2021 年度事業報告、収支決算報告、監査報告
- 二号議案 2022 年度事業計画、収支予算計画案
- 三号議案 役員改選
- (4) 講演会：
- 講演者 青島矢一氏（99 期）
- テーマ「イノベーションを生む産業システムの再構築」
2. 会 報 編 集 委 員 会：年 2 回（5・12 月）会報発行
3. 2022 年 度 会 計 監 査：2023 年 4 月
4. 正 副 会 長 会 (役 員 会)：5 回
5. 理 事 会：5 回
6. 各 期 幹 事 会：2023 年 2 月開催
7. 異 業 種 交 流 会：2022 年 5 月開催 他 2023 年 1 月開催予定（年 2 回）
8. 卒 業 17 年 目 の 会：2022 年開催 時期検討中
9. W E B 広 報 委 員 会：H P リニューアル（適宜）、ツイッター等 SNS 拡充
10. 若手会員獲得プロジェクト：在校生・大学生へのアプローチ等を検討

静高関東同窓会2022年度予算案

(収入の部)

| 科 目     | 2021年度実績  | 2022年度予算  | 前年差異      | 備考   |
|---------|-----------|-----------|-----------|------|
| 年 会 費   | 2,076,000 | 1,950,000 | ▲ 126,000 | 650件 |
| 総会・懇親会費 | 0         | 0         | 0         |      |
| 会報広告料   | 420,000   | 420,000   | 0         | 全21枠 |
| 本部助成金   | 250,000   | 250,000   | 0         | 例年通り |
| 受取利息その他 | 55,012    | 0         | ▲ 55,012  | 寄付なし |
| 計       | 2,801,012 | 2,620,000 | ▲ 181,012 |      |

(支出の部)

| 科 目        | 2021年度決算  | 2022年度予算  | 前年差異     | 備考            |
|------------|-----------|-----------|----------|---------------|
| 総 会 費      | 208,736   | 182,000   | ▲ 26,736 | 前回と同規模        |
| (内総会会場費等)  | (208,736) | (182,000) | ▲ 26,736 | リハーサル会場レンタルなし |
| (内総会懇親会費)  | 0         | 0         | 0        |               |
| 会報発行費      | 1,405,039 | 1,440,000 | 34,961   |               |
| (内印刷費)     | (828,047) | (840,000) | 11,953   | 前年度予算額        |
| (内発送費)     | (576,992) | (600,000) | 23,008   | 前年度予算額        |
| 役員理事会費等    | 80,347    | 327,000   | 246,653  | 理事会.各期幹事会・異業種 |
| 旅費・交通費     | 12,940    | 13,000    | 60       | 静岡一回分         |
| 銀行郵便局振込料   | 119,990   | 110,000   | ▲ 9,990  | 前年並み          |
| 通信費        | 58,376    | 88,000    | 29,624   |               |
| (内インターネット) | (53,540)  | (78,000)  | 24,460   |               |
| 事務費        | 240,000   | 240,000   | 0        |               |
| 消耗品費・雑費    | 30,250    | 50,000    | 19,750   | スイッチャー 4 万    |
| 慶弔費        | 0         |           | 0        | 想定せず          |
| 予備費（活動費）   | 6,000     | 80,000    | 74,000   | 卒 17 の会 若手獲得  |
| 計          | 2,161,678 | 2,530,000 | 368,322  |               |

収支

639,334

90,000 円 黒字

# 天皇が詠まれた「ヒマラヤの鶴」

NHKエンタープライズ  
自然・科学番組エグゼクティブ・プロデューサー

93期 小野 泰洋

大先輩の八牧浩行さんから、現在の天皇陛下(当時は浩宮様)が英国留学時代に現地でインタビュをされたという話をうかがいました。陛下の人間味あふれる人柄に話が弾み、私からも皇室の皆さんはNHKの自然番組のファンだというお話をしたことから、この原稿の執筆に繋がりました。

現在の陛下は登山がお好きです。2005年に出た山岳雑誌『岳人』の700号記念誌では、浩宮様ご自身が山への思いを綴られています。雅子様と数々の山を巡った様子や植物好きの雅子様が撮った花々などの写真が誌面を飾り、雅様が撮影した宮様や、宮様が写した雅子様のアイドルの様な笑顔も掲載されています。

実は、お二人のご成婚の半年前1993年の新春、私は『生きもの地球紀行 ヒマラヤをツルを放送しました』という番組を放送しました。そして、この番組を浩宮様をご覧になり、感動されたに違いないと確信する出来事がありました。八牧先輩と盛り上がったのはこの話です。

世界には15種のツルが生息しています。最も小さい種はアネハヅルといい、体の大きさは

タンチョウの半分ほど。中央アジアからシベリア一帯で繁殖し、秋にはインドなどの乾燥地帯へ数千kmの渡りをします。その移動距離にも驚きますが、もともと凄いのはその途中にヒマラヤ山脈が立ちはだかつていることです。標高8千m級の峰々は山頂付近の気温がマイナス30度以下にもなり、酸素は地上の3分の1です。ヒマラヤのモンスーンが明ける10月の第2週前後、小さなツルが過酷な大飛行を繰り返しているのです。



強風を利用し羽ばたきを少なくする省エネ飛行。小型のツルでないとできない。

その様子を山中で待ち受けて撮影し93年に放送したのが前述の『生きもの地球紀行』でした。すると同年、読売新聞社と日本野鳥の会からアネハヅルの渡り調査に加わって欲しいというお話が舞い込みました。小型

の発信機をツルにつけ、その電波を衛星で追跡して渡りのルートと一緒に解明し、世界に発表しようというのです。NHKはそれに賛同、今度は翌94年の正月に90分の特番を組むことになりました。私は前回の取材で得た経験や情報をもとに調査に協力し、その年の春、シベリアに入りました。見渡す限りの原野でテント生活をしながらロシアの研究者とツルの巣を探し、雛の誕生から成長までを撮影すると共に、睡眠薬を混ぜた餌でツルを捕獲し発信機を取り付けました。モンゴル、カザフスタンの仲間にも依頼し、三ヶ国で20羽のツルに装着できました。



アネハヅルを抱く同行のロシア人研究者。小さな発信機をバックに背負っている。

そして秋、いよいよヒマラヤです。カリガンダキ渓谷の奥地とマナスル氷河にカメラを構え、数万羽のツルが渡っていく光景の撮影に成功、インド内陸部の砂漠地帯まで追跡し、越冬する群れも見えました。ツルがヒマラヤを越えるのは雨季明けの10月初め、10日ほどの間です。この頃は晴天が続きますが、日中になると熱せられた岩や氷河などの上に激しい上

昇風が生まれ、毎日午後には山に向かって猛烈な風が吹きつけます。ところが、驚いたことにアネハヅルは山越えに風を利用します。上昇気流に飛び込むと羽ばたきを止め、翼に風を受けて螺旋階段を上るように円を描きながら舞い上がります。粉の粒ほどにしか見えない高さに達するとV字に編隊を組んで、風に向かって滑空するように前進するのです。高度が足りないことや風に負け、散り散りに数km後ろへ吹き飛ばされ、そこでまた旋回上昇しては前進を繰り返して、ヒマラヤを越えているのです。こうして私たちは2回の正月番組で、アネハヅルのヒマラヤ越えを放送。渡りのルートが解明されました。

一回目の放送は陛下が婚約されて迎えた1993年1月4日。すると10日後、皇居で開かれた歌会始で浩宮様がこんな歌を詠まれました。

大空に舞ひ立つ鶴の群眺む  
幼な日よりのわが夢かなふ

登山好きの宮様にとってヒマラヤは憧憬の地。英国留学から帰国した2年後には、ブータン・ネパールを訪問し、ヒマラヤの入り口サランコットの丘に立っています。登山家に語り継がれていたヒマラヤを越えるツルの存在もご存知だったかもしれません。

「わが夢かなふ」の一つが憧れのヒマラヤを番組で堪能したのとだと私は勝手に思いました。

そしてかなった夢はもう一つ。小学生時代に出会った初恋の人・雅子様とのご婚約です。一般的にこの歌は雅子様への思いをうたったとされていますが、五歳の頃から登山に親しんだ宮様の山への思いと、幼い日に憧れを抱いた方と結ばれた喜びをアネハヅルの飛翔に乗せて詠まれたのだと私は信じています。



シェルパ族の人々は「風の鳥」と呼び崇めている。

そして、この歌の翌年の新春、2回目の番組『追跡アネハヅル謎のヒマラヤ越え』が放送されました。ナレーターは静高の大先輩、山川静夫さん(67期)です。当時は専務理事待遇の特別主幹でしたが、私の書いた台本を、心うつ語りで読んでくださいました。陛下も雅子様とお二人でご覧になったに違いありません。ヒマラヤは珍しい花も多いいところ。いつの日か、ヒマラヤへ。そんな思いで、『岳人』の特集に繋がる登山を、お二人は楽しまれたのだと私は密かに思っています。



## 《時代考証》

## 火中の栗を拾う

81期 若桜木虔

以前は古代中国を舞台の時代小説ばかり読んでいたのだが、このところ日本を舞台の時代小説に読書の中心を移した。

そうしたところ、とんでもない時代考証間違いに気づいた。

時代考証がきっちりした名うての方々の作品なのだが、「火中の栗を拾う」が頻出する。これは実はフランスの詩人ラ・フォンテーヌが著書『寓話』の中で書いた言葉「tirer les marrons du feu」で英訳だと「pull chestnuts out of the fire」となる。邦訳は昭和十七年が初めて。

ただ、大正四年に徳富蘇峰が「日本が列強の為に、自ら手を火中に投じて、栗を拾い上げたは、智なりとせん乎、愚なりとせん乎」と使っているのが、明治時代の末期には、知識人の間では知られていた言葉だろう。

ラ・フォンテーヌの『寓話』は一六六八年の発表なので、これ以前の使用は、どうにも戴けない。ところが鎌倉時代が舞台の時代小説に頻出するのだ。日本古来の諺だと錯覚するのだろう。

「一石二鳥」も、そう。これは英語の諺「To kill two birds with one stone」からの翻訳造語で、幕末から英和辞典に収載され、明治時代になって「一石を以て二鳥を殺す」と訳された。これを「一石

二鳥」と、いかにも諺っぽくしたのは昭和十九年の八木義徳。時代小説に使うのなら「一挙兩得」でなければならぬ。これは中国の『晋書』の「東晉伝」に出て来る。

「又昔魏氏徙三郡人在陽平頓丘界、今者繁盛、合五六千家。二郡田地逼狹、謂可徙還西州、以充邊土、賜其十年之復、以慰重遷之情。一舉兩得、外實內寬、增廣窮人之業、以辟西郊之田、此又農事之大益也」という文章である。

「目から鱗が落ちる」が、かなり時代考証が正確な方々の文章にも頻出する。

「目から鱗」は新約聖書の『使徒行伝』の第九章第十八節の「サウロの目から鱗のようなもの」が落ちて、元どおり見えるようになった。そこで彼は立ってバプテスマを受け」に由来するのだが、どう考えても新約聖書を読んでいるとは思えない人物の台詞に使われているので、これは作者が語源を知らずに使っているとしたか思えない。

卓袱台も同じく、かなり時代考証が正確な方々の文章にも頻出する。戦国時代が舞台の某新人賞受賞作にも出てきたのには驚いた。江戸時代が舞台の時代小説だと、これはもう、枚挙に暇がないほど大量に出て来る。

ところが卓袱台は明治時代に入ってから以降のものなのだ。一七七九年に朱楽菅江が書いた洒落本『大抵御覧』に「卓子台」と出て来るのが家具としての初出で、明治になって仮名垣魯文が『西洋道中膝栗毛』の中で「食机」に「ち

やぶだい」とルビを振ったのが、読み方の初出。

「ちやぶだい」の読みで「卓袱台」の文字を使うようになったのは誰が最初かは未だ突き止めていないが、いずれにしろ明治時代の造語であることは疑問の余地がない。

次が「がんばる」である。「がんばる」は一七四五年に並木千柳が浄瑠璃『軍法富士見西行』で使ったのが文献上の初出で、歌舞伎役者が大股を開き、両眼をカッと極限まで見開いて見得を切る意味で「眼張る」と書いた。

現代の意味は、昭和十九年に童謡「お山の杉の子」の六番に「勇士の遺児なら、なお強い。体を鍛へ、頑張って頑張って、今に立派な兵隊さん。忠義孝行ひとすじに、お日様出る国、神の国、この日本を守りましょう」が初めての用法で、つまり太平洋戦争以前には使えない言葉だが、戦国時代や江戸時代が舞台の時代小説にも頻繁に「頑張る」が出て来る。

もし現代の「頑張る」意味が江戸時代にもあったのなら、作風的に見て、膨大な作品を残した小林一茶の句集に出て来なければならぬはずだが、唯の一句もない（おそらく）。

一茶繋がりで「風」に触れる。「風揚げ」は、最初は「いかあげ」の読みだった。「一茶の句に、いくつか『風』と書いて『いかのぼり』とルビした作品がある。

「風」を「たこ」と読むようになったのは一八三七年に喜田川守貞が著した『守貞漫稿』によれ

ば、江戸が始まりで、関西では、まだ「いか」と読んでいたらしい。

江戸では正月になると御目見以上の身分の旗本は江戸城に上がって将軍に慶賀の挨拶をするのだが、御目見以下の軽輩御家人は上がることができない。

で、正月だから子供にせがまれて風揚げをするのだが、これを見て御目見以上の旗本が「御目見以下の連中がイカ揚げをやつていやがる」と揶揄する。頭に来た御家人が「イカじゃねえ、タコだ！」と言い返したのが「タコ揚げ」の始まりらしいが、これを時代小説にどう書くかと言うと、これは、けっこう難しい。

言葉に関してまで正確に時代考証しようとする、おそらく最も困るのが「霧開気」である。

「霧開気」は時代劇に頻出するし、奈良時代以前が舞台の時代劇にも出て来る。それも時代考証に正確な方々の作品に。

そもそも「霧開気」は、最初「地球を巡る大気」の意味であった。したがって「空気」の存在が認識されるようになる以前には有り得ない言葉なのだ。

だから、代替用語を思いつけなくて非常に困る。

日本語における「空気」はオランダ語からの翻訳造語で、一八四九年に、上田帯刀（尾張徳川家に仕えた蘭学者）が訳した『砲術語選』が初出。

関連付けて言うと「酸素」は一八三三年の宇田川榕菴（津山松平家に仕えた蘭方医）の造語で、「窒素」と「水素」は、一八三四年の

宇田川榛斎（宇田川榕菴の義父で前野良沢、大槻玄沢などに師事。『解体新書』の杉田玄白の女婿となるも、離縁して、宇田川家の養子となる）の造語。

要するに、一八〇〇年代の中盤から、「大気」関連の言葉が、どんどんオランダ語から翻訳造語されて日本語に入ってきたわけである。

しかし依然として「霧開気」は「地球を巡る大気」の意味であって、現代の我々が使っているニュアンスでの用法は、北原白秋を待たなければならぬ。

「霧開気」は、北原白秋が明治四十二年に発表した『邪宗門』に「濃霧」と題して、次のように使われたのが初出（「霧」ではなく「氣」という同音異字だが）。

「濃霧はそそぐ……腐れたる大理の石の生くさく吐息するかと蒸し暑く、はた、冷やかに官能の疲れし光——月はなほ夜の氣開気の麗なる恐怖に懸る」

現代の用法の「霧開気」も「地球を巡る大気」も、英訳すれば同じ「atmosphere」であって、早稲田の英文科で学んだ北原白秋は「そうか。atmosphere には、こういうニュアンスの使い方もあるのか」と閃いて使ったのだろう。

結局、それが日本では「atmosphere」の第一義的な意味の「大気・空気」を完全に駆逐して、英語では第二義的な意味でしかない「その場の様子」といったニュアンスだけになったのは面白いと言え、つくづく面白い。

## 特集

五十年後に届く  
メッセージ

## 「週刊メイチョウ」

高校生と共に

鈴木明徴



## 静高関東同窓会の皆様へ

鈴木 宣子

静高関東同窓会の方から本の紹介文をいただきました。

毎週ガリ版で、わら半紙一枚の作文を配ったことからいつしか「週刊メイチョウ」という名をつけてもらったことです。

昭和四十年九月から、だいたい四年間で百六十くらいありました。三周年、四周年記念号は楽しい有意義な高校生活になるよう、がんばろうと配られました。

箱の中に「スポーツマンのために」「静高生シリーズ」「メイチョウの哲学入門」がとじられて入っていました。

「スポーツマンのために」を読んだ時、静高の運動部はどうあるべきか、せっかく静高に入った生徒の夢を実現させるにはと考えていた頃を思い出しました。

「静高生シリーズ」ではこんなに悪口ばかり書いてと思いました。が、これは彼が卒業生だったから書けたんだなと思いました。

その中で「あんなればこうなり、こうなればあんなる、だからやめた。一手も打たずに頭を下げる碁打ちみたいではないか」ことを読むと小四の孫を思い出します。

「プリント何枚?」「三枚」「じゃあもう無理」と逃げ出す彼にいつか読ませたいと思っています。

「メイチョウの哲学入門」はあまりふれたことがない分野でしたが、読んだらとても面白いと思いました。同級生から「驚いたのは彼が哲学の勉強をしていたこ

とです。高校生にも解るように語るということは彼が深く理解していたからだと思います」と言われ、だから私にも思いました。

ガリ版で書きわら半紙に刷ってあったので時間がたち読みにくく、本にするにあたって全てをパソコンできれいにしていたので、これだけでいいと思っただけでした。

結局ほとんど彼がまとめてあった三十歳前後のものに五十歳頃書いたものを少しつけ加え一冊の本になりました。

「ボールペンの思い出」(下記に抜粋)「ある日の授業から」は静高時代のもので、静高生はダジャレにすぐ反応してくれると嬉しそでした。

個人的にお配りしようと思っていたのですが、新聞社の方に現代に生きる人にとっても役立つことと評され、多くの人に読んでいただきたく思い始めた時アマゾンに教えていただき、新聞にも「高校生へ「元教諭の訴え」と載せていただきました。

アマゾンから遠くのお友達も求めて下さいました。びっくりしたのはそこに卒業生お二人のレビューを見つけたときです。本当

にうれしく本を出して良かったと思います。多くの方が明徴を思い出してくださり感謝致します。

鈴木明徴(すずきあきよし)

昭和12年静岡市生まれ。県立静岡高(72期)、東大理学部卒業後、昭和36年から私立雙葉学園教諭、昭和39年から52年3月まで静岡高校、同年4月から7年間静岡西高、その後、県立川根高校、焼津中央高校教頭、県立横須賀高校校長、藤枝西高校長、県立三島北高校校長を歴任。定年退職後、財団法人静岡県青少年会館事務局長を務めた。平成16年から20年まで八幡聖母幼稚園勤務。令和2年4月逝去(享年83歳)。

西高 Long Temp's 創刊号

## ボールペンの思い出

鈴木 明徴

今私の使っているボールペンは、もうすぐインクがなくなってしまう。

近年、私はボールペンのインクを最後まで使うことに異常な関心を持つようになったがこれは決して戦中派のケチ精神でもなければ自分の性格からでもない。ボールペンに対するささやかな思い出が、私をそうさせるのである。

前任校に十三年いた私は、教科課程の切り替わりといった事情などを除いてずっと一年生の授業を受け持ってきた。

この学校では永年、授業指導学

年を担当するという習慣があったため、私の担任もずっと一年生ばかりであった。

生徒というものは現金なもので、一年生の時どんなに面倒を見ても、卒業してから学校をたずねて来た時には、卒業時のクラス担任の所へ行ってしまう。それを横目で見ながら淋しく思ったものである。

そのため、一回で良いから三年生を受け持たたい、進路の相談や、卒業式の世話をしてみたい、といった気持がだんだん強くなり、そんなことをつぶやいたのが上層部に伝わったのか、十二年目に初めて二年生の担任になったのである。

あとから伝え聞いたところでは、今までのような担任制では、二年部は毎年修学旅行の世話ばかり、三年部は進路の世話ばかりなどというように行事などの負担が先生によって非常にかたよるので、その負担を均等に...という配慮だったようであるが、その時は理由などどうでも良く、三年まで持ち上がるということ、飛び上がるほどうれしかった。一年間、ともかく新鮮な気持ちで頑張ったことを覚えている。

そして、その二年生としての一年間の総決算である修学旅行が三月に行われた。

奈良から京都へ、そして帰静を明日に控えての京都自主研修日、教員は一日中ひまである。生徒の尋ねそうな所を何か所か先回りして、宿舎へ着いてロビーでボサ一と座って生徒の帰りを待つ

昨春急逝した著者が残した文章の中から「哲学入門」「スポーツマンのために」など、人気シリーズをえりすぐってまとめた一冊。時に厳しく、時に励ますようににつづられる言葉は、教え子への愛情にあふれている。(鈴木明徴著・1200円)

(2021年11月21日付静岡新聞「話題の自費出版」より転載)





うちに、こいつらが三年になった時、何か励みになるようなものを持たせることができないだろうか考えた。

そのうちにちょっとしたアイディアを思いついたので、また外に出てすぐそばの文房具屋さんへ寄り、ボールペン五十本とインデックス（口取り紙）を買って帰り、インデックスにクラスの名を一人ずつと、祈健闘と書いてボールペンに巻きつけておいた。さてその夜、外出から帰った生徒全員を、点呼と称してせまい一室へ集めた。当時は三年になった時文理に分かれたため、このクラスがこれで解散することは分かっていた。

そこで別々の道を歩むことになるうとも、このクラスのことを思い、勉強に頑張ってほしい：と一言述べて、一人ずつにボールペンを渡した。

そして「良いか！ボールペンのインクは、ヤマナシの足（註1）のような状態からメイチョウの足（註2）のようにすることが進歩なのだ。」と叫ぶ。

註1：実にみにくく長い、ということ表現する時にしばしば使われている比喩。

註2：適度に美しい短さを示す比喩。時に、何も無いという場合に誤用する者もある。

生徒は納得する。そこでますます調子づいて、「お前達がこれを使ってしまったら、かわりをオレの机の上に置いておくから遠慮せずに持っていき！オレの資産

から考えれば、こんな程度のことではビクともしないからな。」生徒の目は、ギラギラと輝いた。そのせまい部屋にはムンムンとした熱気が燃えだした。

口数こそ少なかったが、心に期するものを持った生徒も多かったようだ。

新学期が来て私は三年生に上った。はじめて卒業生を送り出すことができる：私は新しい体験に興奮した。

新しいクラスは38HRだった。皮肉なことに、文理コースに分かれてしまったために、肝心のボールペンを渡した生徒は、わずかに名しかいなかった。

そこでまた、名前入りのボールペンを用意してこのクラスにも渡した。授業の時に、同じDJジャレを次のクラスにも使うようなうしろめたさを感じたが、なんといつてもこのクラスこそが、これから一年間付き合う自分のクラスである。それに一人でも多くの三年生が燃えてくれればこんなすばらしいことはない。

そこで、なにもなかったような顔をしてボールペンを押しつけたのだ。その三名の冷かしげな顔。他人を暗殺したくなったのはこの時だけである。

しかもその時の一人はバスケット部だった。こうなったらやけくそだとバスケット部員も集めて同じことを言った。そいつは笑いを噛み殺して三本目をもらっていた。

さあ、それからが大変だった。

一か月くらい経つと、使い切った者達が次々と職員室に現れて、机上の鉛筆立てに差し込んであったボールペンを我も我もと持ち去っていった。

二本めからは不特定なので、氏名の代わりに「あと一点！」とか「ここから勝負」とか「苦しみの向うに勝利あり」といったスローガンを巻きつけた。

これもけっこう生徒にはウケたが、いろいろと考えつくのが大変で、同じことを書いておくと「これはこの前あったね」などと嫌味半分に選り分けて持つていく奴もいた。

学校のそばに昔から親しくしていた文房具屋さんへ行った。

四月から急にたくさんのボールペンを買いに行ったので、その主人が興味を持つてくれ、事情を説明したら一本につき十円引きにしてくれた。また、芯だけをかえることも教えてくれたが、使い切ったボールペンを生徒が記念に保管してしまったために古い方を返してくれず、入れ替えはあまりできなかった。

使ったボールペンの束を大学入試へ持っていったと伝えてくれた母親もいた。

そんなことでこの学年はボールペンがひそかなブームになった。私とクラスもクラブもまったく関係ない生徒までもが職員室の私を尋ねて、何故くれないのかと言った。無論、すぐその場で仲間となった。なかなかインクが終わらないのをくやしがつて、ザラ紙にグシャグシャ書きをして終

わらせたと言白しながら新しいのを持つていく者もいた。そして一年、皆それぞれ希望した進路へ散っていった。そして私も、彼等の進路の総括もせぬままに、同時に新設校に移り、現在にいたっている。

あれから六年、あの学年の連中からはほとんど音信もない。あの学年の進学成績がかなり良かったということ風のたよりで知ったのだが、私のボールペンのそもそのねらいがそこにあつたにもかかわらず、そんなことにこだわらなくなっている自分を発見した。

どこへ行つても良い。音信がなくとも良い。あのボールペンをにぎりしめた時の明るく燃えたまなざしを持つて、一生を前向きに突き進んでくれさえすればそれで十分なのだ。

そして彼らはきつとやってくれるし、今もきつとそう生きてくれているに違いない。

ボールペンを使うたびに思い出す、そして私自身もまだまだ頑張っていかなければと心に思うのである。今使っているボールペンのインクも、あと五ミリで終わりである。

## 地球に優しいケチ

鈴木 明徴

私の子供の頃は終戦直後の時代で、生活は極めて質素だった。

米が無い時もあり、チラシを綴じてノートに使ったりした。いまの高齢者には当時の習慣を実践する者も多い。

このケチは家が貧しかったし、国も貧しかったことからくるものだったが、やがて高度成長期となり、驚くほどの物資が回るようになり、豊かな気持ちに満たされた反面、資源の無駄使いに對し厳しい反省も生れた。最近経済が世界的に不況となり、物がダブついてくると、改めて「なんと我々は品物を無駄に作っていたのか」と考えてしまう。

だから当然、物を大切にす資源を合理的に使用する時代がきたと思うが、世界を見るとこれは一個人や一国内だけの問題でなく世界共通のケチを考える時代の様に思う。

今から150年ほど前ドイツのマルクスは富の分配について貴重な学説を説いた。しかしその彼でも当時では、夢にも思わなかった事が一つあつた。それは「人類がこうも簡単に地球を食い尽くしてしまうのか」ということだったマルクスにとって、地球は永遠の宝庫だった。だからこそ彼は富の分配さえうまく行けば、全ての人が無限の豊かさを獲得出来ると考えた。しかし現代の生産力は地球を食い尽くさんとしているのだ。

二十年ほど前の高校社会科教科「現代社会」の教科書にこんなことが載っていた。

ある単元で「地球上に何人の人が住めるでしょう」という問題が



あり、解答は「全人類がアメリカ合衆国の中間レベルの生活をすれば、17億人。日本のそれなら27億人。インドのそれなら63億人」多少差別的な文章だが、世界の総生産額を各国の総生産額で割っただけのもので、それでもなんとなく様子が掴めるのである。また別の單元ではこう書かれている。「21世紀に地球には何人の人が住んでいるでしょう」答は65億人。

前の文と合わせれば、今はもう富を公平に分配しても、インドの中産階級の生活しか出来ない事を示している。そして21世紀になり、幾つかの国の国民はインド中産階級より遥かに良い生活をしている。差し引きで考えれば遥かに悲惨な生活を送る国民が当然出てくるはずなのである。

今地球上は経済的差別だけでなく、地下資源や森林資源の枯渇の問題が起きはじめている。この大不況の折り、なかなか言いにくいことではあるが、必要以上に大量に作って捨ててきた、その無駄に支えられてきた経済のやり方は、もう無理ではないか。生産物を慎ましく、無駄なく利用することで、地球資源が保護されるのではないかと思うのである。今迄は貧しいがゆえのケチであったが、これからは地球に優しいケチで生きるべきではないか。そんなことを思う昨今である。

（鈴木明徴先生が50代後半に執筆されたもの。発刊された『週刊メイチョウ』未収録）



昭和52年4月、一緒に静高を離れ新設の西高に着任された山梨先生(左)、石原先生(中央)と鈴木明徴先生(右)

## 教え子から

### 学理は現実の中にあり

85期 小梁 吉章

50年前のことである。新任の地理の鈴木明徴先生は、教室に入ると自己紹介を始めた。「大学の理学部の地学の出身である」。地理は社会科学の科目と思っていたばくは、奇異に思った。

先生は持参した紙を配り始めた。手書きで用意したガリ版印刷だった。先生は社会問題、時事問題を取り上げて、ぼくたちに自分の見方をしゃべった。これは授業の都度、毎回続いた。教科書はいつも脇に置かれていた。

ぼくは先生から、学理は現実の中にあることを学んだ。ずっと後になって、ぼくも教師になった。図書館の隅で煤だらけになって、新聞の記事を探し、授業のたびに学生に配った。ぼくは鈴木先生のスタイルをまねたのである。それほど先生の授業は魅力的だった。

（毎日新聞・首都圏版平成29年5月30日「母校をたずねる・静岡県立静岡高校・第9回」から転載）

### よみがえるメイチョウ節

92期 渡邊 典彦

高校一年時の地理の授業、登壇する先生はバスケット顧問で熱血タイプ。講義は脱線話が多くとても楽しい。教職とは別に登呂遺跡の研究をし、成果を小冊子にまとめている。凄い先生がいるものだ。と驚いた。中学までの教師像と全く違い、研究者然とした一面に感銘を受けた。先生とその後接点はなかったがなぜか記憶に残っていた。そんな先生の遺作が出版されたことを知り、すぐに読ませていただいた。高校時代に受けたメイチョウ節がよみがえりとても刺激的だった。人の心に残るといふことはこういうことなんだと気づかされた。

### ボールペン・鈴木明徴先生との思い出

93期 38HR 岡村 幸彦

私が静岡高校三年次のクラス担任は鈴木明徴先生でした。初回のHRで言ったことが「朝のHRは特にやらない。いいか、おまえ達はその間に勉強しろ。教室の掃除もおまえ達はしなくて良い。俺がやる。」と言って、とうとう一年間、毎朝教室の掃除をしていました。

そして更には「おまえ達が受験勉強に使うペンは俺が用意する。職員室の俺の机に用意しておくから自由に使え。」俺のおまえ達に対する支援だ。おまえ達は勉強に専念しろ。」と言って、「努力が結果を導く」とかメッセーシタグを一本一本のボールペンにテー

プで貼り付けて不断に用意してくれました。年末になりボールペンの消費に拍車が掛かると「祈・合格」だけのシンブルなメッセーシだけになりましたが。

確か美術の大村先生だと思うのですが、「明徴君は、ボールペンを無償で与える、と言ってしまいい小遣いが減って困っている。皆感謝して大切に使うか、或いはかわいそうだから、もう貴いに行かないように。」と言うお話を聞くにつけ、生徒はお守りのような安心を感じ、各人深く感謝していました。

10年ほど前、先生の叙勲を知りお祝いとしてカルティエの万年筆を贈らせてもらいました。返信で八幡の幼稚園の園長をされていること、写真にあるお孫さんがかわいくて仕方ないこと等が記されており、お幸せそうな様子で何よりでした。

私たち生徒の多感な時期に多くの気づき・生き方を知らしめてくれた恩人、一昨年亡くなられた明徴先生のご冥福をお祈り申し上げます。

### 愛ある指導。

#### 男子バスケット部顧問の明徴先生

93期 33HR 青島 信雄

「足は長さではなく、その足で何ができるかだ」バスケット部の顧問として三年に亘る薫陶を受けたの

に、先生のシルエットと共に思い浮かんだのがこの一言だ。

仲の良かった同僚とご自身の体型を引き比べて、物事の価値・本質の捉え方、ひいては成すべき事について（私達部員の脚を見ながら）説いて下さったのだと思う。一冊にまとまった『週刊メイチョウ』を片手に、ウィットに富んだチャーミングな人だったのだなと思ひ返すと同時に、もつと深く関わっていたらという悔恨を抱く自分がある。

93期 33HR 小野 泰洋

私が高校時代に夢を綴った日記には明徴先生の語録のページがあります。中でも大切にしていたのはバスケットの練習中に語った「人が自分に何を言ったかではない。何をしてくれたかだ」と言う信頼の本質を語った言葉です。

日記の頁をめくると人生を左右した出来事も見つけました。志望校に落ち、合格した地方の国立大学に入学手続きに行きながら浪人したいと、何もせずに帰ってきた翌日の日記です。私の反抗に弱り果てた父親と先生のお宅に伺った日のことです。

▽4月5日 明徴先生はベランダに出て、玄関を開けて僕のくるのを待っていて下さった。やはり先生の言うことには、素直に返事をしてしまふ。反対できなくなってしまう。「大学へ入ることは問題ではない。入って何をするかだ」「浪人は社会へ出るのが1年遅れるから社会に対して喜ばれることで

はない」「合格してうれしいと言っ合格の喜びなどと言っは、受験が作り出した間違っ喜びだ。人間を歪める」

先生は、僕は環境にすぐに馴染めない性格だと言っ。確かにそんな気がする。夏からでも受験勉強は十分間に合うから2、3ヶ月、通ってみると言っ。僕が最も信頼する先生の言葉には従わざるをえない。△

その後、私はその大学へ滑り込みで入学手続きしました。地方ならではの経験豊富な学生時代を過ごし、優れた指導者にも出会いました。その経験や知識のおかげで、静高時代から目標にしていた業界で仕事につくこともできました。多くの人の力を借りることの多い仕事の現場で、先生の言葉は私の支えです。60歳を超えてなお、体育館で聞いた言葉と先生の姿を思い出しています。

### 93期 34 H R 志賀浦 伴昭

チビだった私はバスケットを通じてカッコよく変身したいと言っ不純な動機で初心者ながら入部の部員がいる。中学時代活躍した選手も多かった。続けられるか不安だったが、練習時間は短く集中して勉強も頑張らないといけないう。なんとか歯を食いしばり続けた。高校時代はベンチを温める存在だったが、その後大学でも続け、いまでも地域の子どもたちにミニバスを教えることになったのも、明徴先生のおかげと感謝している。

### 93期 35 H R 俵 芳郎

明徴先生にはとにかくお世話になりました。高校時代、担任として、バスケット顧問としてお世話になったのは言うまでもありませんが、私が高校の教師になってからも、様々な場面でお世話になりました。中高交流人事で中学校への転勤を悩んでいるときに、そっと背中を押してくれたのも明徴先生でした。何か私の教員人生は常に明徴先生の背中を追いかけていたような気がします。しかし追いつくどころか、明徴先生の偉大さに気づくたびに、その背中が遠のいて行くような感じでした。「一生懸命遊べ！」先生からいただいた大切な言葉です。本当にありがとうございました。

### 93期 36 H R 鈴木 大樹

バスケットの練習試合、審判をしてきた明徴さんが、ゲームが止まったタイミングで飛んで来て、突然私を殴った！ 相手チームの全員が哑然としていた。

別の練習試合では、自分で笛を吹いて試合を止め走って来て、私は殴られた。マークをしていた相手から「大丈夫か？」と心配された。コンタクトレンズがズレたが、そのまま試合を続けた。

運動神経がちょっと良かっただけで、試合に出してもらっていただけに、不甲斐ないプレーをする。私が他の控え選手に申し訳ないということを教えてくれたのだと思う。結構、好きな先生でした。

### 93期 36 H R 檜垣 竜郎

明徴先生へ

私は腰を痛め1年の冬にはプレーができず一度退部しました。それでもバスケットが好きで何らかの形でチームに関わりたく明徴先生に相談したところ、温かくマネージャーとして復帰させて頂きました。マネージャーといっても下級生の練習指導係です。実は私たちの学年より下の学年の方が実力があり、また、その下の学年は大型で伸びる可能性がある生徒ばかりでした。そんな金の卵を高校生の私に指導させて頂きました(今から思うと指導になっっていませんでした)。その時から教えるのも面白い、そう思うようになりました。その後、東京都立高校の教員となり退職して再任用となった今でも男子バスケット部の顧問をやっています。明徴先生の絶対に(無理やりでも)やる気にさせるメンタルバスケットは私の宝です。

### 93期 37 H R 青木 伸也

明徴先生にはよく叱られました。その一つ。冬の岐阜遠征で岐阜農林高校から宿舎への帰り道。4人で喫茶店に寄ってヒッチハイクして戻ったら、玄関先に明徴先生が立っいてこっぴどく叱られました。門限時間に遅れたことに我々は気づかなかったからです。正座させられ夕飯抜きだと言われましたが、1時間ほどで許してくれました。懐かしい思い出です。

### 《連載エッセイ》

### たかが同窓会、されど同窓会 第24回

### 「記録は語る」

71期 浦田 彰

### 「旧制第一中学」の面目 全国47高校を秘蔵データで読む (NHK出版 小林哲夫著) という新書版の本が上梓されました。明治19年、1県に1校として創立された旧制中学47校を取り上げて、その百数十年の歴史を記録で辿ろうとしたものです。旧制静岡中学もその一つです。当初わたしは、卒業生や在校生のエリート意識をくすぐるイヤミな本だと思ったのですが、中身は戦後の教育界の混乱ぶりや今日に至る中等教育の変遷、いま高等学校が抱えている課題など記録を中心にしたもので、興味をそそりました。そこで、この本に記載された内容から静岡に言及している幾つかの事柄を抜き出してみました。

まず校名について、ご存知のように昭和23年の学制改革は当時、地方の政治・経済・行政・教育のすべてを支配していたGHQ(連合国軍総司令部)の主導で行われた民主化政策の一環でいわゆる6・3・3制が発足し、県立静岡中学は県立静岡第一高校になりました。ところが、思いがけない横槍が入ります。GHQの一部門であった地方軍政部が、第一」というのは県内の他校を下に見ることになり、不適切であるとして校名変更は却下となったのです。同様なことが愛知でも新潟でも岐阜でもその他いろいろあったようです。いくら敗戦したとはいえ、そこまでGHQの日本支配が及んでいたとは知りませんでした。そこで静岡城内高校となったわけです。それが昭和28(1953)年新校舎の竣工を契機に静岡高校となります。わたしは2年生から3年生、城内のボロ校舎から各自机と椅子を運んで新校舎に移ったのを憶えています。「城内」から「静岡」に改称したことには外野から異論があつたようです。「静岡」を独占するなんておかしい、とか何とか。1952年2月15日の「印高新聞」には「校名決定たるものは至極困難極むる問題で、他校との衝突なしに同意を得るべきものでなければならぬし、県下随一の伝統を生かしたものでなければならぬ」。静岡も県下随一の伝統にこだわった末の先祖がえりでした。校名候補には静岡長谷、静岡岳南、静岡浅間などがあつたようです。他県でも同じように、中にはOBをはじめ県教育委員会や、県議会を巻き込んでの改名騒動があつたことが記録にあります。

次に学業とクラブ活動です。この本で取り上げている47校はすべて、県下随一の伝統校であり、当然進学校です。文武の両立は容易ではないことが強調されていますが、静岡中学が大正13年から4連続で甲子園に出場し、大正15(1926)年には全国優勝を

ることになり、不適切であるとして校名変更は却下となったのです。同様なことが愛知でも新潟でも岐阜でもその他いろいろあったようです。いくら敗戦したとはいえ、そこまでGHQの日本支配が及んでいたとは知りませんでした。そこで静岡城内高校となったわけです。それが昭和28(1953)年新校舎の竣工を契機に静岡高校となります。わたしは2年生から3年生、城内のボロ校舎から各自机と椅子を運んで新校舎に移ったのを憶えています。「城内」から「静岡」に改称したことには外野から異論があつたようです。「静岡」を独占するなんておかしい、とか何とか。1952年2月15日の「印高新聞」には「校名決定たるものは至極困難極むる問題で、他校との衝突なしに同意を得るべきものでなければならぬし、県下随一の伝統を生かしたものでなければならぬ」。静岡も県下随一の伝統にこだわった末の先祖がえりでした。校名候補には静岡長谷、静岡岳南、静岡浅間などがあつたようです。他県でも同じように、中にはOBをはじめ県教育委員会や、県議会を巻き込んでの改名騒動があつたことが記録にあります。



果たしたことに触れたうえ、一項目を設け、最近のウェブサイトの記事を紹介しています。「静岡野球部は創部以来百二十年以上の歴史と伝統を有し、春夏合わせて42回の甲子園出場、夏の全国優勝1回、準優勝2回という輝かしい記録を残している。今日も甲子園優勝をめざし日々厳しい練習に励んでいる」。さらに「静岡は最近もよく甲子園に登場する。地元にとって『静岡』というブランド力は絶大であり、同校を目指す野球少年は多い」。野球だけではなくありません。昭和41(1966)年テニス部が全国制覇を果たしています。この本の記録をみる限りでも、静岡の文武両道ぶりは、全国的にも際立っています。

昭和23年の学制改革で大きな課題となったのが男女共学の問題でした。47校すべてが男子校でしたから、いくらGHQの意向とはいえ、また民主主義化のためとはいえ、伝統ある男子校が一朝一夕に女子と机を並べる訳にはゆきませんでした。各学校とも試行錯誤があつたようです。男女共学はようやく平成時代(1990年代)に入つて定着したといえます。その背景にはいうまでもなく、女性の社会進出や進学熱があつたといえます。いまだに女子の入学を拒み続けているのは宇都宮、前橋、浦和の3校だけです。記録によれば、わが静岡高校も今や在校生比率で女生徒45%となっています。3年前同窓会の総会で教頭先生にお目にかかった折、今年の新入生は男女まったくの同数だと伺いました。余談ですが、こうなったら、校歌の『岳南健児』を変えなくては、というハナシも。静岡の女性1期生は昭和24(1949)年の12名です。わたしの71期は17名、今昔の感です。意気軒昂と校門をくぐった女生徒たちと、戸惑いながら彼女たちを迎えた男生徒たちの心情は如何なものであつたのでしょうか。

こうして47校には歴史があり、校名の変更や男女共学の推進だけでなく地域性、県民性による紆余曲折がありました。数字によるデータにしても、当事者による証言にしても記録は歴史を創るといういいでしょう。

### 江川卓投手 「静岡高校の野球部に 入るつもりだった」と公言

79期 上田 尚亮

YouTubeの江川氏と掛布氏との対談「空白の1日」が起きるまでは江川氏の激動の半生の一部がわかります。非常に面白く、興味深いです。是非ご覧ください。公開チャンネル「江川卓のたかされ」の動画4分30秒から8分ぐらいまで佐久間中学から静岡高校まで言及。「4歳から中二まで静岡佐久間にいた。(名門の)静岡高校とかあるから」(6分頃)「静岡高校に行ったら東大コースだった。人生変わっていた。」(7分30秒頃)と語っています。テロップに「静岡にいれば静岡高校↓東大」と大書きされました。

### 珠玉の連鎖 上田尚亮主将の健闘から60年

岳南球友会  
94期 松永 啓

79期上田尚亮主将内野手が、本会報に90期相当である江川卓氏の談話を紹介されるにあたり、関東同窓会のスマートな紳士、常に優しい上田さんの、江川投手に勝るとも劣らぬ熱い青春を思わずにはいられない。一年生時に偉大な全国準優勝を体験した上田選手等は、翌昭和36年、聖腕石田勝広投手・熱血漢石田強主将捕手の強力チームとして夏県第一シードで臨むが、準々決勝で新鋭東海一にまさかの初惜敗。東一監督は静岡59期若月聡内野手、戦時中に解部で涙を飲んだ若月は監督となつて高度成長期を迎え、やがて来る私学黄金時代を拓きつつあつた。その秋に紅顔の貴公子

江川卓公式チャンネルのYoutube 画面より



上田尚亮内野手が静岡の主将となり勝ち進むが、秋県決勝で再び東一に惜敗。昭和37年春その東一を破つて東海大会に出場し、またしても夏県第一シード。高打率の二番打者で強肩三塁手の上田主将は躍進の要だった。破竹の勢いで勝ち上り7月30日準決勝草薙、春に定期戦で勝っている静岡商と対戦する。その初回に魔の時が来る。静岡の機動力が鉄壁の静岡内野陣を襲い5点を奪われる。追撃する静岡は毎回塁を賑わし上田の2安打を含め13安打で肉薄したが、遂に九回一死一三塁を生かせず7対8で敗れた。

を放ち、藤田駿斗二塁手の大きなスリランなどで打ち勝って春季県大会へ進んだ。投手は10番法月彰弘11番鈴木脩矢18番齋藤童獅20番亀井海夏人等が実戦で投げ競う。エース四番打者の吉田優飛が右翼を守つて強打に特化する層の厚さは、マンモス私学強豪(精励長谷桐蔭?)さながらであり、これが三年連続東大野球部入部(134期奥田隆成135期梅林浩大136期白井捷翔)の公立校とは恐れ入る。上田主将から60年の今、世は平常に戻り、精鋭の意気満つる岳南の地に希望の大合唱が響く季節は近い。

60年の歳月が流れた。関東同窓会で「はて僕は何の部活だったかな?」と、とぼける上田さんはこんなことも言う。「入部した僕達一年生に36期の鈴木万平先輩(大正9年二塁手、東大法↓東洋紡・三共他社長歴任・参議院議員)がトンカツを食べさせてくれた嬉しかった」そして「今も朝目覚めると、今日は準決で静岡商か、よし俺は甲子園を意識してないぞ、全力を尽くすのみだ、と思うんだ。そして・・・まてよ、今は何時だ? ああそうか、俺は今日、暑い草薙球場に行かなくてもいいんだな、とようやく気づくのか(笑)」と。



増井達哉コーチと  
吉田優飛エース四番



一番山本和輝遊撃手(10打席連続長短打)  
二番山岸廉尊主将三塁手(上田主将の再来?)

## シリーズ「こんにちは先輩！」 野方弁護士に教えられた 「やり甲斐」

137期 渡辺 俊介

今年1月5日の昼下がり。中央大学法学部一年生の私は先輩の野方重人さん（77期）の仕事場を訪ねました。「野方重人法律事務所」はJR・地下鉄の神田駅からすぐでした。長年、関東同窓会の拠り所としてオアシス的な存在だったとことです。柔和で優しく応対してくださり、60年の年次の差をほとんど感じませんでした。

野方先輩も多くの法曹関係者を輩出している中央大学法学部出身です。弁護士への憧れを伝えたから「弁護士を目指すなら大学内の法曹サークルに入って切磋琢磨したらい」と貴重なアドバイスをいただきました。司法試験は超難関で、野方先輩も何回も挑戦して栄冠をつかんだとのことでした。「弁護士は多くの弱い立場の人々に寄り添い、一緒に苦難を乗り越える仕事。とてもやり甲斐があるので頑張ってください」と励ましてくださいました。

先輩はいわゆる「街弁（まちべん）」として職場や近隣の揉め事から離婚訴訟まで、多くの裁判に勝利してこられたそうです。面談中も相談者からの電話が鳴り丁寧に対応されていました。

「大学時代は多くの人々と交流し、生涯の友達を作ることが大

事」と野方先輩。「妻とは大学時代に知り合い、司法試験浪人時代はずっと支えてもらった」と懐かしそうに青春の日々を振り返られていました。定年がない仕事で、野方先輩は今でも現役バリバリです。法律相談や裁判所での弁護和解斡旋など活躍中、お姿は輝いていました。



※関東同窓会では、今後もこのような同窓会ならではのセッティングを増やしていく方向です。ご希望の方は、イベントに参加された時などにお近くの役員理事にお気軽に声をかけてみてください。ケースバイケースとなりますが、が就活の一助となれば幸いです。

## 事務通信

イベントは本会報の他、ホームページ、フェイスブック（静岡高関東同窓会）、ツイッター（@sakunan\_kenji）でもご案内しています。ツイッターではこまめな発信が受け取れます。お気軽にフォローしてください。また本の出版等同窓生が活躍している情報を当会へぜひお寄せ下さい。



Twitterへ

## 「異業種交流会」

1月26日に開催を予定していた第30回異業種交流会は、コロナ感染拡大により5月20日に延期となりました。その模様は次号会報（12月）でご報告します。

## 「各期幹事会」

事業報告にもあるとおり、2月26日に開催を予定していた各期幹事会は、飲食を含めた懇親が主目的であることから、コロナ感染拡大防止の為に中止となりました。

## ◆ホームページ閲覧状況（半年）

前年度下期（10月～3月）

訪問者 5722人

ページアクセス 27,967回

◆会員現況 3622名（64名減）

## 母校を巣立った卒業生 138期に関東同窓会を紹介



母校では3月19日に卒業式が挙行されました。本部事務局のご協力により、直近の会報と案内チラシを卒業生の皆さんにお渡ししました。

例年、卒業生の半数以上が関東で学生生活を送ります。お近くで後輩の学生を見かけたら関東同窓会をご案内ください。

## 原稿募集

人気連載シリーズ「わたしと俳句」は次号から「わたしと趣味」に衣替えします。旅行、スポーツ、音楽、鉄道、囲碁・将棋、俳句・短歌など趣味についてご自由に執筆してください。

他原稿も含めファイル添付で関東同窓会公式アドレスもしくは左記アドレスにお送りください。1000字程度で写真を付けていただければ幸いです。（八牧）  
hiroyuki.yamaki@gmail.com

## 編集後記

「教科書は置いたまま」の明徴先生と江川がシンクロし、静岡入学後初の英語の授業が甦る。「江川問題を述べよ」。指されませんようにと願う75分授業の長さを思い知った十五の春。（京）  
▼問・進学校Aが受験特化型に方針を変え、部活動を奨励する教諭が多数離任した。5年後の進路状況は①順調②不振のどちらか、200字以内で述べよ。（万）  
▼日本山岳会報『山』に鶴のヒマラヤ超えが初めて報告されたのは一九五八年。その後、登山家、鳥類研究者、映像・通信技術者などの学際的・国際的協力が小野さんの正月特番に結実するまで35年とは。感慨に浸る間もなく校正の締切は迫るのだ。（淳）  
▼82期の高校時代は90分授業でした。長所と短所がありました。が、「大学の講義並みの水準」と誇りに思っていました。（浩）

## 静岡のおでんとお酒と黒はんぺん

## 静岡おでんガッツ

☎ 03-6273-8663  
🌐 <https://shizokaoden-guts.red/>  
📱 @ShizokaOdenGuts  
📍 静岡おでんガッツ  
〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場2-19-8 阿部ビル1階  
代表 市川徳二（112期）





## 鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長 鈴木 与 平 (76期)

代表取締役社長 鈴木 健一郎 (110期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1

TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-22-7

TEL 03 (6404) 2100

「何宗ですか?」「ハイ、皆之宗(みなのかう)です!」

〜いざという時、頼りになるかかりつけのお寺〜

## 普 門 庵

臨済宗大徳寺派 住職 見城宗忠 (90期)

206-0801 東京都稲城市大丸 857

Tel : 042-378-1707 Fax:042-379-8647

URL : <http://www.fumon-an.jp>



建築・不動産活用などのご相談はどうぞ

## Architects Office

一級建築士事務所

石川 雅英 (94期)

Masahide Ishikawa

108-0071 東京都港区白金台 3-2-16-201

T 03 - 5422 - 6525 HP [www.rvstone.com](http://www.rvstone.com)

[architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp](mailto:architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp)

伊豆の旬



[www.yanmo.co.jp](http://www.yanmo.co.jp)

小林 秀男 (97期)

< 南青山 > 東京都港区南青山5-5-25 T-PlaceビルB1

TEL:03-5466-0636 (日曜日のみ休)

< 丸の内 > 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビルB1

TEL:03-5224-3322 (定休日なし)

伊豆の旬 やんも

仕出し厨房 やんも

< 大手町 > 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビルB1

TEL:03-3278-7272 (土日祝定休)

同窓会で人の輪を!!

## 野方重人法律事務所

弁護士 野方 重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

戴下ビル6F

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820



激動世界! 正確な真相ニュースで「平和」に貢献

相談役・主筆 八 牧 浩 行 (82期)

[yamaki@recordchina.co.jp](mailto:yamaki@recordchina.co.jp)

本社 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館3F

TEL 03-3573-7501(代) FAX 03-3573-7503

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

## 鳥 巢 修 税 理 士 事 務 所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848

E-mail : [tosu@mtj.biglobe.ne.jp](mailto:tosu@mtj.biglobe.ne.jp)

\* 昼 2 時より夜11時まで診療 \*

## 医) 名 泉 会 タカラ 歯 科 診 療 所

代 表 フラ シナ アキ オ 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩 5 分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒 2-18-13

mail: [jimbo20seiki@gmail.com](mailto:jimbo20seiki@gmail.com)

2階) ブックカフェ二十世紀



●アメコミ・海外コミック

(MARVEL&DC他 原書リーフ/TPB/ハードカバー、日本語版)

●歴史・民俗・風俗・江戸・東京・食べ物

●演劇・芸能/TV・音楽・落語・盛り場

●絵本・児童書・漫画・雑誌・サブカル

●思想・哲学・人文

●明治文学・評論

SF、ミステリ、幻想と怪奇

(SF、ミステリ、推理小説  
幻想・怪奇小説、ホラー & ファンタジー、評論他)

映画グッズ・関連品

(ポスター・パンフ・プレス・チラシ・写真他グッズ・書籍)

文学/人文系

(文学・評論他、岩波・ちくま・講談社学術文庫他)

昭和の芸能、スポーツ関連 (野球・相撲・プロレス)

その他サブカルチャー、書籍百般



@ワンダー (1階)

mail: [wonder@atwonder.co.jp](mailto:wonder@atwonder.co.jp)

書籍 家財 雑貨 等

買入れ・整理・片付け

お気軽に御相談下さい!

@ワンダー

フリーダイヤル 0120-154-727

店主 鈴木 宏 (91期)

101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4 開拓社ビル 1・2F

## 2021年度 静中静高関東同窓会会費拠出者一覧

(692件) 多くのご支援をありがとうございました

|    |                                                                                                            |    |                                                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 72 | 小沢忠樹、法月重雄<br>上野広                                                                                           | 73 | 大木茂、岡本修、杉山光、鈴木聰男、<br>鈴木豊、鈴木良明、遠山敦子、仲川信正、<br>中西宏幸、林さち子、松下勝朗、松永烈、<br>山梨由記、山全登                                                                                                               | 82 | 松永旭、森下鉄夫<br>青木健一、青木興治、青木式、青山修二、<br>荒牧喬平、飯田幹夫、池田整、石川倫男、<br>石川康宏、石津保彦、伊沢佐知子、伊東惇、<br>岩崎年史、遠藤良治、大内修、大村多聞、<br>小野宏、金子恵子、篠原温、鈴木良彦、<br>多賀谷秀保、伊達新之輔、富坂修、<br>永野順治、堀内淳司、村上和男、山内昭一、<br>八牧浩行、吉田昌史 |
| 71 | 石川宏、伊藤勝、浦田彰、遠藤幸男、<br>遠藤吉隆、岡田紘、栗田甲子男、小池啓治、<br>後藤弘枝、諏訪逸郎、曾根幸一、富野壽、<br>長倉眞一、橋爪尚也、前田利彦、村松綏啓、<br>矢部正和、山田卓夫、山本雅司 | 74 | 大嶽隆司、角谷治子、佐藤薫郷、佐藤鐘司、<br>西村泰一、萩原茂春、藤原經史、望月保、<br>森田史雄                                                                                                                                       | 83 | 大石高志、勝又徳明、久野泰可、久野淑子、<br>酒井正夫、渋谷治美、鈴木秀孝、富永武則、<br>中村豊、仁藤邦夫、野呂克実、長谷川千代、<br>馬場信幸、渡水実根子                                                                                                   |
| 70 | 石山博、市川三世史、太田英雄、大場良臣、<br>影山昇、片山智司、清水令一郎、白石通子、<br>清智、関哲男、滝口登、田中元、調子達郎、<br>富田三樹、中村龍二、仁科俊介、増井満男、<br>望月泰弘       | 75 | 安達嗣雄、井伊谷彰、今田肇、勝亦正安、<br>川面忠男、越村敏昭、笹尾光彦、佐藤修二、<br>篠原興、城之内一成、藤倉美耶子、<br>本多幸吉、村松友視、柳澤弥太郎                                                                                                        | 84 | 杉山篤史、杉山順一、鈴木啓俊、鈴木正利、<br>多賀谷保治、成田恵理子、野口洋一、<br>吹井承三、古谷良樹、松島勤、松永重雄、<br>吉野文江、渡会清治                                                                                                        |
| 69 | 山下泉                                                                                                        | 76 | 青島大太郎、國保能彦、齋藤俊英、<br>坂内三容、清水澄夫、杉山貢、高田忠敬、<br>田口紘一、田村充、塚本平二、富田駿介、<br>青木三郎、安達忠良、安達宣郎、石橋三洋、<br>石間啓一、石山建一、伊藤達雄、岩崎敏宏、<br>梅屋尚子、大岩蓮、勝間田正喜、栗田收司、<br>後藤嘉代、小長井奎幸、清水雅尚、<br>中川素子、成島道宮、袴田共之、松井義之、<br>森正毅 | 85 | 池田幸司、伊東成師、遠藤とも子、栗林貢、<br>杉山由紀子、高橋成彰、竹内二士夫、<br>竹内裕子、竹田徹、増井喜一郎、松本隆史、<br>三上嗣夫、望月光、安本敬、山本政博、<br>青山隆一、近藤孝邦、篠宮章、鈴木正俊、<br>長島正、成岡和美、野口ひろみ、八牧暢行、<br>山田健司                                       |
| 68 | 荒谷じつ子、稲葉清、岩瀬順郊、宇田貞子、<br>大石康博、佐野川好母、鈴木昭夫、<br>瀬口寿一郎、塚本浩司、築地六郎、吉崎英輔                                           | 77 | 青木三郎、安達忠良、安達宣郎、石橋三洋、<br>石間啓一、石山建一、伊藤達雄、岩崎敏宏、<br>梅屋尚子、大岩蓮、勝間田正喜、栗田收司、<br>後藤嘉代、小長井奎幸、清水雅尚、<br>中川素子、成島道宮、袴田共之、松井義之、<br>森正毅                                                                   | 86 | 安倍敏陽、石神葉子、石川嘉和、石渡洋行、<br>泉洋子、栗田敏史、小長井一男、小林俊隆、<br>沢井良輔、高橋宏、坪内和人、林暁、<br>平岩正史、水上浩司、横山隆美、藁科名雄、<br>宇佐美博高、大石裕、大村康二、奥田晃、<br>片山秀、近藤秀樹、塩沢潤、田中育恵、                                               |
| 67 | 遠藤一彦、鈴木敏行、長倉孝三、増田安国、<br>向井久和                                                                               | 78 | 縣保佑、天草静子、石井博之、石原庸雄、<br>石山喬、鎌田勇、川崎敏弘、小林俊、<br>白木桃子、田中奉、増田勲、望月省吾、<br>安間孝信、安本恭介、山本勇夫                                                                                                          | 87 | 安倍敏陽、石神葉子、石川嘉和、石渡洋行、<br>泉洋子、栗田敏史、小長井一男、小林俊隆、<br>沢井良輔、高橋宏、坪内和人、林暁、<br>平岩正史、水上浩司、横山隆美、藁科名雄、<br>宇佐美博高、大石裕、大村康二、奥田晃、<br>片山秀、近藤秀樹、塩沢潤、田中育恵、                                               |
| 66 | 茂木爲男                                                                                                       | 79 | 井出雅子、上田尚亮、小川郷太郎、<br>小林陽三、村田吉隆、山本勝                                                                                                                                                         | 88 | 片山秀、近藤秀樹、塩沢潤、田中育恵、                                                                                                                                                                   |
| 64 | 新井彰、遠藤榮、近藤博之、杉本哲、<br>塚本光彦、野澤正憲                                                                             | 80 | 池ヶ谷吉人、小木哲朗、風戸学、柴田裕、<br>鈴木勝、長島孝太郎、松澤公夫、<br>吉田伸一郎                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |
| 62 | 寺尾壽夫                                                                                                       | 81 | 伊井和良、鈴木一郎、仲澤幸子、英嘉明、                                                                                                                                                                       |    |                                                                                                                                                                                      |
| 61 | 稻森慎二、清水照彦                                                                                                  |    |                                                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |
| 60 | 原善三郎、山本正三                                                                                                  |    |                                                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |
| 59 | 田澤義彦、福地彊、本田豊                                                                                               |    |                                                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |
| 58 | 青山勇、狩野和男、酒井哲夫、勝呂清、                                                                                         |    |                                                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |
| 55 | 上野広                                                                                                        |    |                                                                                                                                                                                           |    |                                                                                                                                                                                      |



- 97

安藤裕倫、内田雅彦、大砂泰幸、岡村浩志、小澤靖弘、窪田誠、甲田直美、小坂倫久、山元一
- 96

近藤浩史、鈴木伸子、中尾安志、細澤優、青木伸、青木正樹、芦野光憲、大澤理、島田淳、清水尚彦、曾根正裕、田村公二、遠又寛行、永江総宣、堀川和裕、見原万智子、山岸雪乃、山本好久
- 95

松野敦子、山内隆史、石井克昌、上田洋平、牛見豊、内田真理、太田洋行、岡部正明、菊入弘行、菊入みゆき、島田淳、清水尚彦、曾根正裕、田村公二、遠又寛行、永江総宣、堀川和裕、見原万智子、山岸雪乃、山本好久
- 94

荒井軍治、石川雅英、石川雄一、石部久雄、稲葉宏、岩崎朝一、小川志郎、亀山晴信、木村純子、木村寿克、栗田明、栗原千朗、小池一徳、杉田智昭、鈴木真次、谷口寛明、捶井隆、照井徹、野中保晃、松永啓、松野敦子、山内隆史
- 93

大瀧良勝、小澤薫、小野泰洋、勝又健次、志賀浦伴昭、洪田亮太、高柳広之、中村哲人、野毛宏、日比谷優子、渡辺晃一郎
- 92

青木洋、石川隆、稲葉繁、海野典夫、服部泰子、船城由美子、納本淳司、日下淳、清水篤、園野康祐、永田俊介、浮田聡、浦野利信、甲斐祥子、川村朱美、船木真由美、村松秀明
- 91

佐野靖宏、猿木信裕、鈴木忠善、土崎弘子、伴野昌厚、中村未弓、原幸彦、藤嶋善彦、青島裕之、生田英一郎、伊藤義和、岩崎哲也、宇佐美恵子、小原裕子、栗山雅之、小林廉毅
- 90

秋山治彦、大村健二、栗山伸一、見城宗忠、佐野雅明、清水美久、宗野和夫、永原収、深沢英昭、望月明彦、森田悦三、山下雅子
- 89

矢部みはる、山田裕道、海野秀之、加賀谷正敏、北村美佐子、北村佳久、新村暢宏、多々良勝仁、南條和子、平川慶子、牧野尚夫
- 88

深澤良彰、松村淳子、安本隆晴、矢部みはる、山田裕道

- 137

杉田太志、鈴木康生、高林径子、多々良典秀、中沢京子
- 122

飯塚元紀、大石健二、大村慎一、佐野倫、名取俊也、星野典子、村上孝子、室田真男、山本浩志
- 120

青柳康博、稲葉克哉、尾高泉、加藤晃史、川又竹男、鈴木亜由美、鈴木芳信、田旗裕也、山下暢久
- 119

五十嵐寧、小西秀雄、佐野正幸、長谷川和也、牧田秀幸
- 118

穴澤敦子、漆畑裕樹、大石智子、櫻井里子、夏目幸一郎
- 117

佐藤敬子、佐藤友男、橘和之、谷津剛也、田村晋一、向井良、渡辺晃生
- 116

海野佳幸、大村卓矢、大矢かおり、日下雄一郎、向田敏弘、山下史記
- 115

鈴木美穂子、萩原さほり、吉崎亜由美、田中雄介、山中彰人
- 114

安部啓、木本雅彦、小島太郎、竹田仁、小澤康裕、松永鋭太郎
- 113

鈴木健一郎、市川徳二、加藤剛史
- 112

岩崎衣里子、土屋晴裕
- 111

青山亮介、五賀溪
- 110

神田康、渡辺俊介

住所変更をお忘れなく！



上記 HP の他、メール、事務所（FAX、電話）でも受け付けております。

関東同窓会は会員の会費（年間3000円）で運営されております。同窓生、同期生に声を掛け合いご協力をお願いします。

#### ◆年会費（維持費）

今年度より、みずほ銀行での受け入れも可能となりました。

手数料オトクなランキング

##### 第1位

・ゆうちょ銀行口座がある方は、同封の払込票を使い、現金ではなく口座から振り込めば無料です。（払込票を使わないと手数料100円がかかります。）

・ゆうちょ銀行口座がある方で「ゆうちょダイレクト」に加入していれば（月5回以下は）、手数料が無料です。

・みずほ銀行口座がある方は「みずほダイレクト」に加入していれば、みずほ銀行間の手数料が無料です。

##### 第2位

・ゆうちょ銀行ATMにて払込票を使い、現金で振り込むと手数料110円です。（令和4年1月17日より全国一律）

他行からの振込等、払込票を使わない場合、左記の口座をご指定ください。依頼人名やコメントなどの画面にて、必ず卒業期の数字入力をお願いします。

##### ★ゆうちょ銀行

〇二九（ゼロニキュウ）店  
当座 0009969

##### ★みずほ銀行

江戸川橋支店  
普通 8078861



非破壊検査のトータルサプライヤー

**日本マテック株式会社**  
**NIHON MATECH CORPORATION**
代表取締役社長 **松島 勤** (84期)

東京本社：東京都新宿区若葉 1-21-17 3F  
 TEL: (03) 3221-7531 FAX: (03) 3221-7240 (〒160-0011)  
 大阪支社：兵庫県高砂市春日野町4-35 グランメーブル435 1F  
 TEL: (079) 447-1561 FAX: (079) 447-1556 (〒676-0814)  
<http://www.matech.co.jp/>


**株式会社 スマートグラフィックス**
代表取締役社長 **福田 浩志** (97期)
 〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-34-13  
 TEL. 03-3953-1184 FAX. 03-3953-1194

 〒335-0036 埼玉県戸田市早瀬 2-22-10  
 TEL. 048-422-3660 FAX. 048-422-3661

smagro

 「三島」に移住したくなるサイト  
**Mishima Style 三島スタイル**


HP

**曽根正裕**  
 (95期)


Youtube

**高きを仰ぎて心を繋ぐ**
 さあ一緒に時空を超えて  
 吾等が聖地を歩みましょう
**岳南球友会**

会長：望月 一男 (70期 野球部)

HP「岳南球友会」

連絡窓口：080-5580-2958 (94期 松永)

メール：k30.ska-1213m@ezweb.ne.jp


 『アジアの窓』編集長  
**八牧 浩行**
**ANOMADO**

中立公正な言論ニュース・広場

 〒105-0004 東京都港区新橋2-20-15  
 新橋駅前ビル1号館305-1

TEL 03-3573-7501 FAX 03-3573-7503

携帯 090-2653-9469

E-mail hiroyuki.yamaki@mbm.nifty.com

幼児教育に新しい風を


**こぐま会**  
 幼児教育実践研究所
代表取締役 **久野泰可** (83期) 取締役 **久野淑子** (83期)
 本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F  
 TEL 03-3463-3815

Lighting For Your Safety

**Koito**
<https://www.koito.co.jp>**安全を光に託して**

人とクルマの安全は私たちの願い

【本社】東京都港区高輪四丁目8番3号 TEL:03-3443-7111  
 【静岡工場】静岡市清水区北脇500番地 TEL:054-345-2251(代表)  
 【海外工場】USA、メキシコ、ブラジル、UK、チェコ、中国、台湾、  
 タイ、インド、インドネシア、マレーシア

小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)